

科目名称：	一般教養演習	
担当者名：	瀬戸 就一、井戸 健敬、藺森 喜美、小原 慎平	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
新卒採用の筆記試験でSPIを導入している企業が増えています。SPIとはリクルート社が開発した基礎能力テストで、「言語」や「非言語」などの知識が評価されます。 言語問題では、どんな仕事をするにも必要とされる基礎的な語彙（ごい）力や、文章読解力などが問われ、非言語問題では、基礎的な計算能力や論理的思考力が問われます。 本演習はSPI対策として言語と非言語について学習し、基礎学力を養うことを目的とします。		
授業の達成目標・到達目標		
就職活動における筆記試験合格を目標とします。 第1回のテスト結果から学力に応じたクラス編成を行い、クラスに応じて授業内容を適宜変更します。右記の「授業の内容・計画」は中位クラスの内容で、上・下位クラスについては進度を調整します。また、前半の10回は非言語分野を学習し、残りの5回で言語分野と公務員対策用の非言語分野に分かれ、クラス編成を2回変更します。		

ビジネス実務学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		○
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	50	40		10	100
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
言語分野	語句や四字熟語をよく理解しており、SPIの言語問題を速く正確に解答できる。	語句や四字熟語を理解しており、SPIの言語問題を正確に解答できる。	語句や四字熟語をある程度理解しており、SPIの言語問題を解答できる。	語句や四字熟語をほとんど覚えておらず、SPIの非言語問題を解答できない。
非言語分野 (公務員対策問題を含む)	SPIの非言語分野の問題をよく理解し、速く正確に解答できる。	SPIの非言語分野の問題を理解し、正確に解答できる。	SPIの非言語分野の問題をある程度理解し、解答できる。	SPIの非言語分野の問題を理解できず、凡ミスや計算ミスが多い。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第 1 回	確認テスト	言語・非言語分野における基礎的な復習をしておくこと。	60分
第 2 回	計算の基礎	SPIの非言語分野がどのようなものか事前に調べて理解しておく	20分
第 3 回	代金の清算	計算の復習	30分
第 4 回	割合の計算	計算、代金の清算の復習	30分
第 5 回	料金の割引	割合の計算、料金の割引の復習	30分
第 6 回	小テスト1（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの非言語分野の基礎を復習しておくこと。	60分
第 7 回	濃度算	基本的な計算について復習し、濃度算について予習しておくこと。	30分
第 8 回	速度算	基本的な計算について復習し、速度算について予習しておくこと。	30分
第 9 回	仕事算	基本的な計算について復習し、仕事算について予習しておくこと。	30分
第10回	小テスト2（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの非言語分野を復習しておくこと。	30分
第11回	A: 二語の関係、B: 虫食い算と魔方陣	A: 言語分野、B: 公務員対策分野に分かれるため、事前に各分野を予習しておくこと。	60分
第12回	A: 文の並び替え、B: 折り紙と暗号	文の並び替え、折り紙と暗号について例題を予習しておくこと。	30分
第13回	推論	推論についてのプリント問題をよく復習しておくこと。	30分
第14回	命題	命題についてのプリント問題をよく復習しておくこと。	30分
第15回	小テスト3（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの各分野（A, B）を復習しておくこと。	60分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、配付プリントを完成させておくことになる。			
成績評価の方法・基準			
定期試験は、 50%で評価する。 その他の評価配分は、以下のとおりである。			
小テスト3回を合わせて40%、授業への貢献・積極的関与10%で評価する。			
課題に対してのフィードバック			
小テストを評価し返却する。			
教科書・参考書			
「最新！SPI3【完全版】」高橋書店 事前事後学修、及び授業内で毎回指定のページを参照する。			